

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 臼杵 開催概要

〔開催日：令和4年5月23日（月）〕

〔学校訪問〕 臼杵市立野津小学校

〔訪問者〕 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
臼杵市教育委員会（安東教育長、教育委員 他）

1. 概要説明

臼杵市立野津小学校では、「言葉を大切にし、学校・家庭・地域を元気にするのびあい・つながる 野津っこ」を学校教育目標とし、教職員だけでなく家庭・地域と協働的に子ども育てに取り組んでいます。

具体的な取組として①話す・聞く・返す対話的な学び②何でも話せる職員室の雰囲気づくり③地域・保護者の授業参加の3つの説明がありました。また山本校長からは、野津ブロックの幼小中一体教育の取組も紹介していただきました。



概要説明をする野津小山本校長

2. 授業参観

(1) 1年生 生活科「あさがおの せわをしよう」

本時のねらい

植えたあさがおのこれからの世話について、これまでの経験やあさがおの様子の変化に着目して、あさがおを育てるには、支柱を立てたり追肥をやったりすることに気付くことができるようにする。

授業の実際

現在育てている朝顔の本葉の育ち方に ICT を活用しながら着目させて、本葉の形や大きさの違いなどの気づきを共有し、これからの世話の仕方についてペアやグループで話し合う姿が見られました。



1年生の生活科の授業風景

(2) 6年生 家庭科「『いためる』調理のよさを見つけよう」

本時のねらい

「いためる」調理のよさを、ほうれん草や卵を使ってゆでたり、いためたりする実験で、見たり触ったり匂ったりする活動により、「いためる」調理の方が高温で短時間に加熱できることを理解できるようにする。

授業の実際

コロナ禍により、調理実習がなかなか実施しづらい状況の中で、6年教室と家庭科室をオンラインで中継するといった新たな試みを参観することができました。また、当日は、野津中学校で家庭科を担当する佐藤教諭が調理実習に参加するなど、小中連携の取組の様子も確認できました。



6年生の家庭科の授業風景

(3) 意見交換

- ・野津小学校が、言語能力を育成に重点をおいて取り組んでいることがわかった。標準語及び野津ならではの言葉の両方を大切に子ども育てとともに、子どもたちが自分の考えを伝えたいと思うような授業づくりさらに取り組んでほしい。
- ・入学して1年半あまりの子どもたちの意識をしっかりと引きつけたり、子どもたちの気づきをつないだりしている1年生の先生の授業技術に感動した。
- ・6年生の家庭科では、なかなか調理実習ができない中、なんとか行おうとする努力を伺い知ることができた。今の子どもたちに必要なのは、生活する力であり、必ず全員が体験できる工夫は、素晴らしい。

〔意見交換会テーマ〕 「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～うすき幼小中一体教育の推進～

〔出席者〕 学校訪問及び学校等関係者

1. 臼杵市の取組説明「うすき幼小中一体教育の推進」

平成26年度より全市展開しているうすき幼小中一体教育の具体的な内容として、①中1ギャップの解消を目指した小一中の連携、小一小の連携②それぞれの「育ち」の理解を深めるために幼小の連携の強化③ブロックの特性を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進、そして「野津ブロック」を例に具体的な取組の説明がありました。



取組説明をする新名課長

2. 意見交換

(1) 幼小中連携のポイント

まず、出席者より、幼小連携のポイントについてキーワードで示した内容について具体的な説明がありました。幼小中がなめらかに接続するために必要なことについてもそれぞれの考えを話していただきました。意見交換を通して、当初は、小学校と中学校の連携を目的にスタートし、取組が進んでいく中で、小学校同士の連携がとても効果的であったことが出されました。

キーワード『つなぐ』

「小学校だけでなく、幼小中それぞれのファシリテーターでありたい」



山本英幸 (野津小学校長)



亀井一寿 (野津中学校長)

キーワード『安心して野津中へ』

「野津中は、いいんや」としてもらえるような取組をブロックで一体的に取り組んでいきたい



渡辺信一郎 (臼杵支援 特別支援教育コーディネーター)

キーワード「発達障がい」

子どもたちの困りの早期発見や解決支援に向けてつながっていききたい



神田寿恵 (すみれこども園 園長)

キーワード「子ども理解」

臼杵市が、幼児教育をしっかりと見つめてくれていることに感謝



渡辺美穂 (下北小 臼杵市幼小連携コーディネーター)

キーワード「距離をちぢめる」

子どもだけでなく、教職員同士も子どもを中心にすえた対話を積み重ねることが大切

(2) 幼小中連携の今後に向けて

後半は、幼小連携の今後に向けての意見交換を行いました。その中で、特別支援教育の望ましいあり方や地域と協働的に取り組む世代間を超えた幼小中の新たな連携のあり方、小1学級担任の合同研修会の実施などの意見や提案が出されました。



(3) 教育委員からの主な意見

- ・臼杵市の幼小中連携の取組がよくわかった。就学支援のあり方など、専門的な立場の方との連携が日常的に行えていることが素晴らしい。
- ・育てたい子ども像やそのための具体的な取組など、ブロックごとにビジョンを明確に示していることなどは、大変参考になった。
- ・中学生とこども園の幼児との交流などは、幼児だけでなく、中学生の成長を実感できるという視点からも、また先生方にとっても意味のある活動である。臼杵市の地域の特性を活かした取組を今後も実践して欲しい。

(4) 意見交換を終えて

① 岡本県教育長より

子どもたちの様子も授業参観を通してしっかりと見る事ができた。また、これまで臼杵市が取り組んできた幼小中一体教育を通して、臼杵の子どもたちにしっかりと寄り添い、様々な先生方が参画しながら、子どもたちと向き合っていることに感動した。

臼杵市の取組は、他市町村にも必要なことであると思われるので、「ヨコ連携」の展開も視野に入れていきたい。



岡本天津男 県教育長

② 安東市教育長より

提案性のある意見交換を行いたいと思い、このテーマとさせていただいた。今後は、地域を巻き込んで、ビジョンを共有しながら取組をさらに深化させていきたい。

併せて、教職員の人材育成については、「3つの提言」推進重点校を中心に、6年間積み重ねてきた。この取組は、教職員の資質向上に確実につながったと実感している。今後もしっかりと取り組んでいきたいので、県の支援を引き続きお願いしたい。



安東雅幸 市教育長